

## 新たな戦争状態に対応する新たな知、新たな運動

2022年9月 文明フォーラム@北多摩 雨宮昭一

はじめに

まだ必ずしもわかっていない世界の変化とそれに対応する運動や知のありかたもまだまだわかっていない、あるいは形成途上にある。参加者が、職場、住んでいる地域、諸運動、研究などでのそれに関する経験、知識、情報、などを持ち寄り構成しあい、作っていくしかない。ここではそのための一つの試論を材料としてお話しをする。皆さんはそれぞれ持ち寄ってほしい(参考、雨宮昭一ブログ本年3月26日、7月7日、8月9日)。

### 1、現状

新しい国際的枠組みの形成過程、二次大戦の戦勝国同士の代理戦争も含む直接対決、したがってこれまでの「核兵器不使用前提」「無条件降伏モデル」は通用しない。香港問題、ウクライナ戦争、台湾有事、ナトー派、反ナトー派。軍事的展開、睨み合い—小競り合い—実戦—通常兵器—戦術核兵器—戦略核兵器。Cf 単純なウクライナ応援は、大軍拡、原発再稼働や開発の容認になる。

しかし軍事で事態がすすむわけではない。それと異なる、経済、政治、外交、運動、文化、交流、ネットワーク、認識、意識などの非軍事領域のあり方。

### 2、対応

イ、国際秩序の方向、ナトー派のダブルスタンダード指摘、さらに独立し70数年へた植民地、従属国のあり方の指摘。

「帝国」(白人天国も含む)の再形成、国を越えた国際秩序、主権的国家による領域内一元支配、「民族自決」による国内の自立的動きの弾圧、「伝統」や「民主主義」による「価値観」の押し付け、を最上位において、軍事的手段を用いて他のものを制圧しようとする覇権国、覇権国際秩序、形成、に、非覇権、非軍事、非暴力の秩序を

ロ、認識の転換、帝国、主権的国家、民族自決、価値観を最上位に置かない出発点—その地域に住んでいる人々の生命と生活を最上位におき、他は補完する、例 アルトジュース主権論。人々の一元的排外主義、ナショナリズム、の相対化。

それに見合った運動—「非武装地帯宣言」、20年ほど前、松下圭一さんなどとりあげ、国立市、札幌市、東京都など各地に広がり、取り組まれる。それは平時のものだったが、新しい段階での「有事」のものとして検討、実践。

ハ、経済では、侵攻勢力には経済制裁、より根本的には覇権の基礎となる競争、分断の経済を相対化する、協同、連帯経済。

ニ、外交では、多数派である非覇権国をあつめ非覇権、非軍事、非暴力の秩序形成、。

ホ、職場、地域などなどの運動とその内外のネットワーク、形成

ヘ、文化—国を越えた楽しみ

ト、内外の諸交流の個人的、社会的つながり。などなど持ち寄らしましょう。